

施工方法（粉末タイプ、ペーストタイプ）

布クロス 紙クロス

※ビニールクロスを剥がしたプラスターボード・合板の場合もこの手順に従って施工してください。

珪藻土壁材（エコ・クイーン）は弾力性がありません。施工前に下地に動きがないか確認の上、施工してください。

1 クロスを剥がす

表面のクロスをすべて剥がし取り、壁に残っているクロスの下紙も剥がしてください。

下紙は、水分を与えてふやけたところをスクレーパーで剥がしますが、冬季など低温下では、のりが固く、ボードの表面の紙もいっしょに剥がれてしまうことがあります。スチームクリーナーを使って剥がすなどの工夫をして、できる限りきれいに剥がしてください。

カッターナイフなどで下地のボード面にまで深い切りこみが入らないようご注意ください。仕上げ面にクラックを生じる恐れがあります。

下紙を残したまま施工しますと、下紙が水分を含んで波打つようにふやけ、仕上がりに影響を与えます。また、下紙ごと壁が剥がれる可能性があります。

下地の確認 「注意」を参照

クロスの下紙の剥がし方



下紙に水分をたっぷりを与え、



下紙がふやけたタイミングをみて、スクレーパーで剥がしてください。

乾燥

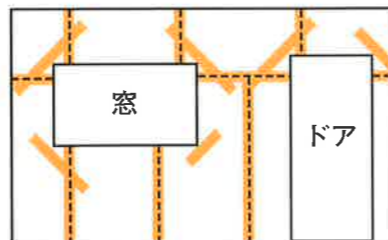
2 ファイバーテープ貼り

ボードのジョイント部、入隅、出隅、そして、開口部（窓・ドア）の角にファイバーテープを貼って補強してください。のり付きではないファイバーテープの場合は、タッカーで留めてください。

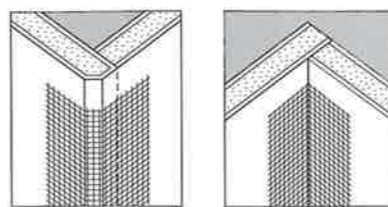
ファイバーテープは、よじれたり浮いたりしないようしっかりと密着させてください。



クロス用のパテが塗られているところがボードのジョイント部です。



開口部の角にも貼って補強



出隅 入隅

コーナー定木を使う場合は20ページ参照

クロスを剥がす理由

- 布クロスは、汚れが染みこんでいるケースが多く、接着力が極端に落ちると共に汚れが仕上げ面に出る恐れがあります。
- 紙クロスは、壁材の水分でふやけ、仕上げ面に影響を与えます。また、汚れが染みこんでいる場合は接着力が弱くなりますので、壁剥離の恐れがあります。

3 シーラー塗布

全面に水性シーラーを塗ってください。

塗り残し・塗りムラがないように丁寧に塗ってください。

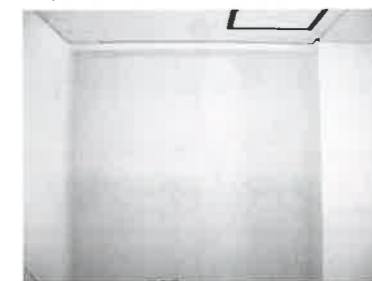
乾燥

4 下塗り

下塗材（NGU）を塗ってください。（標準施工厚：1mm）

下塗りで平らな面を作っておくことが、仕上材をきれいに塗るためのポイントです。

▼下塗り後、下地からアクが出た壁面



乾燥

アクが出ていないかチェック

アクが出た場合は、再度下塗りをしてアクを止めてください。

5 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。（標準施工厚：粉末タイプ2mm
ペーストタイプ1.5mm）

仕上げ塗りの要領は22ページ

コンクリートに直貼りのクロスの場合

1 クロスを剥がす

乾燥

あとの手順は上記3.4.5と同じです。

表面のクロスをすべて剥がし取り、壁に残っているクロスの下紙も水分を与えてふやかし、スクレーパーできれいに剥がし取ってください。



▲コンクリート面の下紙剥がしは、たっぷり水を与えてふやかすのがコツです。

注意

- クロスの下地はしっかりとビス留めされていないことが多く、ヘアークラックが入る恐れがあります。くぎ留め・タッカー留めの壁には、ビスを打ち足して補強してください（4ページ「木下地」参照）。なお、ビス打ちの際には壁内の配線・配管をビスで傷つけることがないようにご注意ください。
- GLボンド貼りのボード下地の場合、ヘアークラックが入る恐れがあります。あらかじめご了承ください（5ページ「GL工法」参照）。
- ビスやくぎがさびている場合、仕上げ面にシミとなって浮き出しますのでサビを除去してください。除去しにくいときは、マスキングテープの小片を密着させてサビ部分を覆うなどの処理をしてください。
- カビが生えている場合は、消毒用エタノールで確実に殺菌してください。カビが下地の奥にまでおよび、殺菌しきれない場合はボードの貼り替えが必要です。